

「素晴らしい神である聖霊による神の国の進展」使徒1：8－11（ペンテコステ礼拝）

堀田修一 22・6・5

I 三位一体の神の定義＝神は、一つの神であると同時に三つの位格（父・子・聖霊）として永遠に存在されている。父と子と聖霊は同等の神であり、それぞれ完全な神でありながら3つの神ではなく、互いに愛し合う一体のお方、一つの神。①一つの神を示すみことば＝「父と子と聖霊の名（名の原語は単数＝父と子と聖霊が一つを意味する）において彼らにバプテスマを授け」マタイ28：19。②一つの神でありながら、互いに愛し合い協力し合い創造と救いのみわざをされる位格＝人格、神格のある神であることを示すみことば＝「神（三位一体の神）は仰せられた。『さあ、人をわれわれ（父と子と聖霊）のかたち（性質）として、われわれ（父と子と聖霊）の似姿に造ろう』創世記1：26。③本日はペンテコステ礼拝。ペンテコステとは、五旬節の意。過越の祭り（主が私たちの罪のためにいけにえの小羊として十字架で死なれた）から五十日目であるため五旬節と言われる。新約時代の私たちは、御聖霊が御父と御子からこの世に遣われた「聖霊降臨日」として喜び感謝する日。クリスマス礼拝（大切なひとり子イエス様をこの世に救い主として送られた父なる神の愛）とイースター礼拝（主イエスの十字架と復活の恵み）とペンテコステ礼拝（聖霊なる神との交わり）は、三位一体の神の恵みを喜び感謝する日です。

II 父と子と聖霊なる神の私たちの救いのための役割分担＝

- ①父なる神は、救いのご計画者。エペソ1：4，5。御父は、大切なひとり子のイエス様を私たちの救いのために、この世に遣わされた。
- ②子なる神イエス様は、御父が計画された救いを成就された方。私たちのための十字架と復活により救いを成し遂げられた。「雄やぎや子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました」ヘブル9：12。
- ③人格のある聖霊なる神は、御子イエスが成就された救いを世界中の人々に適用するお方、救いを心に届ける方。主の救いを伝える人々に力を与えて。「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。…地の果てまで、わたしの証人となります」使徒1：8。御聖霊は、66巻の聖書全体の約四十人の聖書記者に働かれ、誤りのない神のことばを記すようにされた。これまでも現在も、私たちが聖書を読む時、心の目が開かれ、聖書のみことばが理解できるのは、御聖霊が真の教師として心に教えて下さるから。感謝！御聖霊は、聖書を通して私たちの罪を示し、十字架の意味を教え、主を信じる信仰告白に導いて下さる。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主（救い主、神、私の主人）です』と言うことはできません」Iコリント12：3。

III 神の国と御聖霊

1. 神の国は、聖霊の国として、すでに、この地上で実現しつつある。「わたし（イエス様）が神の御霊（御聖霊）によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです」マタイ12：28。キリストが、神の御霊によって地上で神のわざを行われるとき、そこに神の国が実現していた。神の国は、天にあるのみならず、御父と主イエスと御聖霊により、この地上に実現、前進し続けている。大きな励まし。主イエスは天に帰られたが、天より遣わされた御聖霊により、神の国は地上で進展し続けている。主は、十字架にかかる前に、弟子達に約束された。「わたしが去って行く（天に戻る）ことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ（天に戻らなければ）、助け主（聖霊なる神。パラクレートス＝慰め主、励まし主、援助者、助け手）があなたがたのところに来ないからです。…その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられる」ヨハネ14：16。さらに主は、復活して天に帰る直前にも約束された。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。…地の果てまで、私の証人となります」使徒1：8。その約束の通り、主の昇天の十日

後の五旬節（「イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを話された」使徒1：3。主の十字架と復活後、地上で復活の証拠を示されたのが四十日。その後、天に帰られて十日後（使徒達に与えられた祈りの時間）、ご聖霊を世に送られた。40+10=50=五旬節）に、天から聖霊なる神が世に下られ（使徒2：1-4）今も、御聖霊により、神の国（神の支配）は、この地上に広がりつつある。

2. 聖書全体からの時代の流れの教理。①三位一体の神による天地創造。②人間の罪による墮落。③キリストの初臨（クリスマス・十字架・復活・昇天）。④御聖霊の降臨（教会の誕生）。⑤神の国の進展。福音の世界宣教。世界中での地域教会の誕生と教会形成。現在の私たちは、この時代にいる。⑥患難時代。マタイ24：9-29。⑦キリストの再臨、新天新地、神の国の完成。
3. 神の国の確信、聖霊による告白。天国に行く恵みを、今、御聖霊によりこの世で確信できる。天国は、神（キリスト）の国であるため、キリストを救い主、神と告白する必要がある。御聖霊により、私たちは信仰告白へと御聖霊により導かれる。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」Iコリント12：3。主は言われた。「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる」ヨハネ7：38。「生ける水の川」とは「イエスを信じる者が後になってから受ける御霊」のこと。ヨハネ7：39。天国の中央には、いのちの水の川が流れているが、そのいのちの水は、死後に天国で飲むのではなく、今、ここで飲むことができる御聖霊のいのちの恵み。御聖霊との命の交わり。キリストにあって死ぬ者は、天国にただちに移される。主は、ただ信仰によって天国に行くことができると約束された。主イエスが十字架につけられたとき、隣の十字架に付けられた犯罪人は、主を信じ言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください」イエスは言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイス（天国）にいます」ルカ23：41-43。
4. 神の国と聖霊、変革の国。からし種。天から遣わされる御聖霊は、救いの確信にとどまらず、この世を力強く変革して行く力となる。御聖霊の働きにより、神の国は、この地上において力強く進展していく。古いものを打ち砕き、新しいいのちの世界を実現している。神の国は変革の国として、御聖霊により、今、地上に顕わされつつある。神の国は、天のはるか彼方にある不滅の国であるが、この地上の歴史と深く結びついている。主イエスはこの世のただ中に来られた。神であるキリストが地に下り、人となり（神であり人である方）、ベツレヘムの家畜小屋にお生まれになった。主イエスは、ナザレで30年過ごし、カペナウムを拠点にガリラヤ地方で伝道し、エルサレムにおいて十字架で死なれ、復活された。主イエスは正にこの世界に来られた神。キリストの降臨により、天国とこの世は深く結びついた。現在、天での礼拝と地上での礼拝は、御聖霊により結びついている。神の国は、キリストの到来により、すでにこの世で実現しつつある。キリストのいのちと御聖霊により生まれた教会は、小さなからし種のようなものであっても成長を続け、現世を変えていく。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります」マタイ13：31-32。神の国は一貫して拡大し、全世界に及んで究極に至る。迫害があるが「御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから、終わり（主の再臨）が来ます」マタイ24：14。御聖霊は、私たちの心とこの世を力強く変革する力を持っておられる。主の初臨と御聖霊により、終わりの時代（神の国の拡大）は、すでに始まっています。